

FD 関連研修会 参加報告書

| | |
|----------|----------------------------|
| 主 催 | SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク） |
| 企画名称・テーマ | SPOD フォーラム 2011 |
| 開催日＜会場＞ | 2011年8月23日（火）～25日（木）＜愛媛大学＞ |
| 参加者所属 | 教学部 教育開発課 |

参加報告

2011年8月23日（火）から3日間、愛媛大学を会場に開催された SPOD フォーラムに参加した。

SPOD とは、四国にある 33 全ての高等教育機関が加盟する FD・SD ネットワークで、連合体のスケールメリットを活かし、実質的で質の高い F D 活動を展開している組織である。

また、今回参加した SPOD フォーラムは、多彩な講師陣による実践型プログラムを多数提供している事が特徴で、多くの講座でグループワーク等を導入している。

今回の報告書では、私が参加した 6 つのセッションの中でも特に本学で役立つようなものを 3 つ取り上げ紹介したい。

1) 効果的な授業改善の方法／講師：佐藤浩章（愛媛大）

このセッションでは、効果的な授業改善の方法として「授業アンケート」と「授業参観」を取り上げ、その 2 つを実施する際の注意事項と期待される成果について報告がなされた。

まず、授業アンケートであるが、それ自身が「非常に精度の粗い顧客満足度調査」であるため、「意味が無い！」などのネガティブな意見も聞かれるが、これ以上効率的で学生の声を聞く方法も今のところ無い事から、FD の根拠資料としてなり得るとした。

その上で、実施の際は、

- ①知りたい事を明確に打ち出し、意味のあるアンケートを設計する事。
- ②実施時は、アンケートの目的を明確に伝え、意味の有るデータの回収を心がける。
- ③回収は、学生や職員が望ましい。（教員であると学生も率直には書きにくい。）
- ④結果はできるだけ早くフィードバックする。
- ⑤教員へのフィードバックだけでなく、教員がアンケート結果を持ち寄り「そのような取り組みや声かけが学生の学習意欲を高めたか？」を話し合う場を設けることが重要。などが指摘された。

一方、授業参観については、他者（特にあまり親しくない教員）に批評される事は、

逆効果の場合もあるので丁寧な実施が必要と指摘し、テーチング・スクエア（4人での相互授業参観）、ティーチング・トライアングル（3人での授業参観）など成功に向けた事例紹介があった。

2) 学習評価の基本／講師：城間祥子（愛媛大）

このセッションでは、学習評価に関する基本用語の理解や、多様な学習評価方法の習得を目的に開催された。

学習評価は、成績の優劣をつける作業と思われがちだが、学生の学習姿勢を大きく左右するものであることやアカウントビリティーの視点からも、学習効果を促し、かつ、双方が納得できる評価をすることが重要であると指摘し、①評価のタイミング（学期中か終了時か）、②評価の原則（スピード・ポジティブコメントが望ましい・学習到達目標との関係）、③評価方法を意識して実施することが原則であると指摘した。

また、評価方法として、客観試験・論述試験・実地試験などの方法や、それぞれの評価方法のメリット、デメリットについても説明がなされた。

有効な評価手法として「ループリック評価」が紹介され、評価項目と到達度の度合いをあらかじめ基準化しておき評価する事が有効であることが報告された。

3) 学習成果をどう測定し、活用するのか／講師：山田剛史（愛媛大）

大学のユニバーサル化が進行する中で、教育の質保証が求められており、その成果の測定についてはまだまだ議論がなされているところである。

そういった現状を踏まえ、各国で実施されている調査を例に挙げ、調査の目的や方法、運用プロセスについてお話を頂いた。

また、調査の実施については、方法、時期、対象を明確にしておくことが重要で、特に大学内での調査は関係部署との事前の打合せが重要であると指摘された。

調査を実施すれば、何らかの結果が出る訳だが、その結果をいかに活用するかが重要でIR的な発想に立ちFDや外部評価との連動をいかに有機的におこなうかが課題だとも指摘された。

以上